

#### 74. 下半もぢゆ S 群ニツイテ

(名大) 伊藤 昇

群  $G$  の部分群  $H$  のツケル来ヲ  $L(G, H)$  トカク。O. Oreハ  $L(G, H) = \text{Jordan-Dedekind}$ ノ連続律ガ成立シ。カツ主鎖指数ガ順序ノ意味デーツツツクガイニヒトシイヤウナ  $G$ ノコトヲ *conformal* トヨビ、ソレニツイテ興味アル研究ヲンテオル。(O. Ore, *Contributions to the Theory of Groups of finite Order Duke* 5, 1939). トコロガ末論ノ方カライエバ  $G$  ガ *conformal* ナハ  $L(G, H)$  ガ下半もぢゆ S 束デアルト言ウニ等シイ。ソノ意味デ下半もぢゆ S 性ヲ基礎ニオイテカシ  $Ore$ ノ理論ヲヨリ末論的ニノベテミタイトオモウ。

[定義]  $L(G, H)$  ガ下半もぢゆ S 束ナルトキ  $G$  ヲ下半もぢゆ群トイフ。

[定理 1]  $G$  ヲ下半もぢゆ群  $G_1$  対スル  $H$  ヲソノ部分群トスル。  $H$  ガ  $G_1$  ノ極大部分群ナラバ  $H$  ノ  $G_1$  対スル指数ハ素数デアル。

[証明] 帰納法ニヨル  $H$  ガ  $G_1$  ノ極大部分群ナラバ  $H$  ノ  $G_1$  対スル指数ガ素数

デアルコトヲシメセバヨイ。サテ  $G$  が  $q$  の唯一ノ極大部分群ナルトキハ  $q$  ハ巡回群ヲ定理ノ成立ハ明白デアルカライマハカンガヘナイ。ソコデスクナクトモニツノアイコトナル極大部分群ガ  $q$  = 存在スルガ  $M_1 * M_2$  ガ  $q$  ノ極大部分群ナラバ下キも  $q$   $S$  性カラ  $M_1$   $\wedge$   $M_2$   $\wedge$   $M_1$  オヨビ  $M_2$  ノ極大部分群。シタガツテ帰納法ノ仮定カラソノ指数ハ素数デアル。イマ  $M_1 = M_1 \wedge M_2 = P_1$ ,  $M_2 = M_1 \wedge M_2 = P_2$ ,  $q : M_1 = n_1$ ,  $q : M_2 = n_2$  トオケバ  $n_1 P_1 = n_2 P_2$ . コノ式カラタダチニ  $M_1$   $q$  ノ極大部分群,  $n_1$   $q$  ノ指数トスレバ,  $n_1$  ノ素因子ノ個数ハ  $M_1$  ノイカンニカカハラズ一定デアリ。カツ  $n_1$ ,  $n_2$  ハ高クーツノ因子シカコトナラズ。シタガツテ  $q$  ガ  $P$ -群デアルトイウ自明ノ場合ヲノゾケバ  $P | n$  ナラ  $P || n$  デアルコトヲシル。サマ  $q$  ノ位数ガアイコトナル高クニツノ素数デシカワレナイトキハ定理ガ成立スルコトハ明白デアルカラ。  $q$  ノ位数ハ少クトモ三個ノアイコトナル素因数ヲ有スルトシテヨイ。ソノトキモシ  $q : M = P_1 P_2 \dots$  ナラバ  $P_i$  ニ対スル Sylow 群ノーツヲ  $S_i$  デシメストキ,  $S_i$  ヲフクム極大部分群ノーツノ  $M_i$  ヲトレバ  $q : M_i = q_i P_i \dots$ ,  $q_i \neq P_i$ .  $S_j$  ヲフクム極大部分群ノーツ  $M_j$  ヲトレバ前二者ト比較スルコトニヨリ  $q = M_i = P_i r_i \dots = q_i S_i \dots$ ,  $P_i = q_i$  素数 以上。

[定理 2]  $q$  ヲ下キも  $q$  群  $G$  ヲソノ任意ノ部分群,  $P$  ヲ  $q$  ノ位数ヲフル任意ノ素数トスル。  $q$  ハ指数ガ  $P$  デアルヨウナ極大部分群ヲフクム。

[証明] マツ  $q = P_1^{e_1} P_2^{e_2} \dots P_r^{e_r}$ ,  $P_1 > P_2 > \dots > P_r$ ,  $e_i \geq 1$  ( $i = 1, 2, \dots, r$ ) ヲ  $q$  ノ位数  $q$  ノ素因子分解トシ,  $P_i$  ニ対スル Sylow 群ヲ  $S_i$  デシメストキ,  $S_1 S_2 \dots S_r$  ( $i = 1, 2, \dots, r$ ) ガ  $q$  ノ正規部分群デアルコトヲ証明スル。帰納法ニヨル  $S_1$  ガ  $q$  ノ正規部分群デアルコトヲサエシメセバヨイ。定理 1 カラ容易ニワカルヨウニ  $q$  ハ可解群デアルカラアル  $P_i$  ニ対シテ指数  $P_i$  ノ正規部分群ヲ有スル。  $i = 1$  ナラ  $S_1$  ハソノ正規, シタガツテ特部分群ダカラ  $q$  ノ正規部分群トナル。  $i = 1$  ナルトキモ  $e_1 > 1$  ナラ上ト同ジ論法デ  $S_1$  ノ極大部分群ガ  $q$  ノ正規部分群ニナリ。シタガツテソノ剰余群ヲカンガエレバ  $S_1$  ガ  $q$  ノ正規部分群トナル。  $e_1 = 1$  ナルトキハ  $S_2$  ガヤハリ上ト同ジ論法デ  $q$  ノ正規部分群トナルカラ  $q/S_2$  ヲカンガエレバ  $S_1 S_2$  ガ  $q$  ノ正規部分群トナル。ココデ  $q \supseteq S_1 S_2$  ナラ仮定カラ  $S_i$  ガ  $q$  ノ正規部分群トナルコトノ逆トマツタク全ノ論法デアルカラ  $q = S_1 S_2$  ノ場合ヲカンガエ

ル。トコロゴノ場合ニハ定理2ノ成立ハ自明デ 何ハ指数  $P_2$  ノ極大部分群ヲ有シカツ  $P_2$ ガ最小素因数デアルカラ。ソレハマタ  $G$ ノ正規部分群トナル。ソウダトスレバ  $S_1$ ガ  $G$ ノ正規部分群トナルコトハ既ニ自明デアラウ。ソコデ定理ノ証明ニハイル。イマ注意シタヨウニ  $r \leq 2$ ナラ定理ハアキラカニ真デアルカラ  $r \geq 3$ トシテヤル。ソノトキモ帰納法ニヨル。  $G$ ガ指数  $P_2$ ノ部分群ヲ有スルコトサエ証明スレバヨイ。サテ  $S_2$ ノ  $G$ ニイケル正規化群ヲ  $N_2$ トスレバ  $G = N_2(S_1 S_2)$ 。何者  $G$ ノ任意ノ元  $g$ ニ對シテ  $S_2^g = S_2^t$ ,  $t \in S_1 S_2$  シタガツテ  $g t^{-1} \in N_2$ 。ソウダトスレバ  $N_2$ ノ  $G$ ニ對スル指数ハ1又ハ  $P_1$ ハ。コノトキハ  $G/S_2$ デカンゴイレバヨク。  $P_1$ ノ中ナルトキハ  $N_2$ ヲフクム  $G$ ノ極大部分群ヲトレバ定理1カラソノ  $G$ ニ對スル指数ハ  $P_1$ ニ等シイ。以上。

【定理3】  $G$ ヲ下半もぢゆS群トスレバ  $G$ ハ主鎖デアルヨウナ主組成列ヲ有スル。ソノ際ニ主鎖指数ハ單調増大デアルトシテヨイ。

【証明】  $G$ ニ位数  $P_1$ ノ正規部分群が存在スルコトヲシメセバ アトハ帰納法ニヨリ証明サレル。定理2ニオケルゴトク  $(G_1) S_1$ 。マツ  $S_1$ ガアーベる群ナラハ定理2カラ  $G$ ハ指数  $P_2$ ノ部分群ヲ有シ。ソコデハ位数  $P_2$ ノ正規部分群が存在スルガ。ソレハ同時ニ  $S_1$ ノ正規部。群デモアルカラ  $G$ ノ正規部分群トナル。  $S_1$ ガアーベる群デナケレバ  $S_1$ ノ中心ヲ  $Z_1$ キ1デシメセバ  $Z_1$ ノナカニ  $Z_1 S_2 \dots S_{r-1}$   $P_1$ ナルゴトキ位数  $P_1$ ノ部分群が存在スルガ。ソレハマタ同時ニ  $S_1$ ノ正規部分群デアルカラ  $G$ ノ正規部分群トナル。 以上。

サテ定理3ノヨウナ性質ヲ有スル群ガ定理1ヲ満足スルコトハ明白デアルカラ下半もぢゆS群ニオケル上記三定理ハ同値デアル。ソコデ定理1ノ逆ヲ証明スレバ下半もぢゆS群ハソノイツレデモ特徴ゾケラレルコトニナル。

【定理4】  $G$ ヲアル群  $G_1, G_2$ ヲソノ部分群トスル。  $G_1$ ガ  $G_2$ ノ極大部分群ナラバ  $G_1$ ノ  $G_2$ ニ對スル指数ガ素数デアルコトガ任意ノ  $G_1, G_2$ ニ對シテイハルナラバ  $G$ ハ下半もぢゆS群デアル。

【証明】  $G$ ガ下半もぢゆS群デナケレバ  $M_1, M_2$ ガ  $M_1$ ノ極大部分群デナイヨウナ  $G_2$ ノ極大部分群  $M_1, M_2$ ガ存在スル。ソウダトスレバ仮定カラ  $G_2$   $M_2 < M_1$ ;  $M_1 \cap M_2$ 。矛盾。 以上  
コノコトカラタダニ

【系】  $G$  が上半もぢゆS群ナラバもぢゆS群デアアル。

ナホ定理2カラ容易ニ  $G$  ノ任意ノ部分群ヲ  $H$  トスルトキ  $H$  ハソノアラユル可能ナ位数ニ対シテソノ位数ノ部分群ヲ有スルコトガワカル。コノ逆ニ関シテ  $O_{n-1}$  ハ剰余群ニ対スル仮定ガ必要カドウカハ興味アルコトデアリ、マタモシ必要ナラソノヨウナ例ガ構成セラレルダラウトイッテオルガ、ソレハ必要デナイ。シカシ  $O_{n-1}$  ガ予想シタヨウナ例モアル。即チ下半もぢゆ群ハツギノ定理ニヨツテモ特徴ツケラレルワケデアアル。

【定理5】  $G$  ヲアル群、 $H$  ヲソノ任意ノ部分群トスル、 $H$  ガソノアラユル可能ナ位数ニ対シテソノ位数ノ部分群ヲ有スルナラバ  $G$  ハ下半もぢゆ群デアアル。

【証明】 モシ定理ノ仮定ヲ満足シテ、シカモ下半もぢゆS群デナイヨウナ群ガ存在スルナラバ、ソノヨウナ群ノナカデ極小位数ノモノガ存在スルハズデアアル。ソレヲ  $H$  トスル。コノ場合ニモ  $S_1 S_2 \dots S_m$  ( $n \geq m$ ,  $c_i = 1, 2, m, n$ ) トナルコトハ明白デアアル。サラニ  $H$  ニ位数  $P_1$  ノ正規部分群  $P_2$  ガ存在スルコトモ容易ニワカル。ワレワレハ  $H/P_2$  ニ定理5ノ仮定ガ成立スルコトヲシメシテ矛盾ヲダス。ソレニハ定理2ノ結果ガ成立スルコトヲイエバヨイ。  $P_2$  ヲアクマナイ、 $H$  ノ極大部分群  $P_3$  ガ存在スレバ  $H/P_3 \cong P_3$  デ後者が下半もぢゆS群デアアルカラヨイ。イカナル極大部分群モ  $P_3$  ヲ含ムナラバトクニ指数ガ  $P_1$  ナル極大部分群モ  $P_2$  ヲアクム。ソウダトスレバ  $H/P_2$  モ指数  $P_1$  ノ極大部分群ヲ有スルコトニナル。 以上

【例】 四元数群  $Q_8$  ノ同型群  $H_4$  ニ同型デアアルカラ  $Q_8$  ハ位数3ノ同型対応  $\sigma$  ヲ有スル、 $Q_8$  ノ上ノ  $\{\sigma\}$  ノ holomorph ヲ  $G$  トスル。  $G$  ノ真部分群ガスベテ下半もぢゆS群デアアルコトハ容易ニ検証サレル。シカシ  $G/\{\sigma\} \cong O_3$  故カラ  $G$  ノ真剰余群ニハ下半もぢゆS群デナイモノガ存在スル。

1947. 11. 20